



2026年度 須磨学園中学校入学試験

国語

第2回

(注意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、受験番号シールを貼り、受験番号と名前を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
3. 解答は、1行の枠内に2行以上書いてはいけません。また、字数制限のある問題について、記号や句読点も1字と数えることとします。
4. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

須磨学園中学校

一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

何かが気にかかる不安でしかたのないときや、何かにとてもコマつたときに、人はあれこれ考えはじめる。でも、まわりを恨んだりじぶんを責めたりしているだけで、真正面からじぶんに向かって問い合わせることはしないことが多い。

「どうしてオレはあんなことをしてしまったのか？」と心のなかでいうけれど、ほんとうにそう問うてはいない。「やつてしまつたじぶん」を裁いたり責めたりするだけで、「ほんとうのじぶん」はそんな人間ではないはずだ、とつぶやいている（やつてしまつたじぶんにも言い分はあるはずなのに、ね）。

心がひとつの感情に固着してしまって静かにじぶんを見つめることができないときには、考えるのをやめるのが大切だと思う。まずは「いまじぶんは物事を考えられる状態にあるかどうか」と考えて、できないと思ったときは、体操したり遊びにいつたりするのがいい。

でも、〈自覚的にじぶんの心を見つめてたしかめようとする〉とは、それができるときには、とても有効な方法だ。

わたしは何を恐れているのか。何に怒っているのか。何をもとめているのか。じぶんのなかに動いている感情を、ていねいに見ていく。あることをもとめるじぶんがあり、カタホウにそれを恥はずかしく思つて認めたたくないじぶんがいるかもしれない。でも、

どんなじぶんもそのままいつたん受け入れてみる。——そして見つめるなかから、じぶんの意志がしだいにかたちをなしてくるのを待つ。

ていねいにじぶんの心を聴き取つて、深い納得のもとに生きていこうとすること。いつもできるわけではないけれど、ぼくはこういう方法をとつてきた。

ところで哲学は、昔から、普遍的・一般的な問いを発してきた。たとえば〈真理とは何か。真なる知識は可能なのか〉〈美とは何か。人はなぜ美をもとめるのか〉〈正義とは何か。人はキヨウセイされなくとも正義をもとめるだろうか〉など。

つまり「わたしが美しいと感じるのは何か」ではなくて、「美とは何か」と問うのだ。でも、そうやって問うことについていどういう意味があるのだろう。普遍的に問うことは、わたし個人を置き去りにして、高みをめざして昇ろうとするみたいだ。

だから、こんな意見も出てくる・普遍的な真理、普遍的な美、普遍的な正義。そんなものがあるはずもない。いや、あつたとしたつて、「このわたし」が生きていくには関係ない。普遍的なもののもとめようとするのは、うさんくさい。「じぶんに問う」とには意味があつても、「普遍的に問う」というのはぼくには必要ないな。

——ちょっと待つてください。「普遍的に問う」とこと、「普遍的な美や正義があらかじめ存在すると思いこんだうえで、そこ

に到達しようとする」ことは、ちがうはずだ。たしかに哲学者たちのなかには、普遍的な真理・美・正義があらかじめ存在すると信じていた人もいたけれど、それはあきらかにひとつのセンニユウケンであつて、まずそのことじたいが検討されるべきことだろう。

場所と時代を超えた、美の普遍的な基準など存在しない、と思う人は多いはず。たとえば、平安時代の美人は引き目・鉤鼻かきばなだつたけれど、ゲンダイの美人の基準とはずいぶんちがう。けれど、人の姿や自然の風景に魅みせられて、おもわず「きれいだなあ」といつてしまう。そのことじたいは、場所と時代を超えて、人が人であるかぎり変わらないことではないだろうか。さらに、美しさのなかに見ているもの——清らかさ、やさしさ、エロティックな魅力みりょく、キリリと引き締ひきしまった感じ、などなど——にも、深い共通性があるのではないだろうか（でなければ、外国の小説や物語に美しい人の描写ひがうしが出てきても、まったくピンとこないはず）。

つまり、美に普遍的な基準はなくとも、美しいと感じることは普遍的な現象である。同じく、正義の普遍的基準は存在しなくても、「あいつはたらしい！／あいつはなんてひどいことをするんだ！」と感じるのは、普遍的な現象だといえる。

その意味で、真理や美や正義は、どんな人間の生にも関わっているもつとも基本的なことがらなのだ。

それらについて問うことは、だから、〈人間とはどういう存在なのか〉を問うことには他ならない。哲学のもつとも根本のテーマは人間であり、その問いはすべて、〈人間とは何か〉をめざすのである。

人間はもちろん一人ひとりが異なった独自な存在だけれど、その生き方には深く共通するものもある。古代人の文章や絵や彫刻に、異なった文化をもつ人びとに、同時代にぐらすさまざまな人びとに接することは、じぶんの感受性や価値観がいかに特別な条件づけられたものであるかを発見することであり、それとともに、人間としての普遍的なもの、喜怒哀樂きよどあいらくを生きる同じ人間としての共感を見いだすことだ。

『哲学ゲーム』は、個をムシして普遍の高みに昇ろうとするものではない。じぶんを理解しようとすることからはじまり、じぶん以外の他者を理解しようとし、そしてそれらを「人間存在そのものの理解」へとつなげていく。また逆に、だれかがつくった「人間存在についての理論」の側から、他者やじぶんを照らしかえそうとする。——からへ、逆にからへ、たえず行つたり来たりするプロセス。『哲学ゲー

ム』は、こういうプロセスなのである。

（西研『哲学のモノサシ 考えるつてどんなこと?』による）

一 の設問

問一 次の文を本文中に挿入するとき、最も適当な箇所を本文中から探し、挿入直後の五文字を書き抜きなさい。

美という例で考えてみよう。

問二 「『美とは何か』と問うのだ」(——線部A)とあります
が、これはどういうことを言っているのですか。その説明と
して最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えな
さい。

- 1 哲学は、個人の情動や具体的な経験を対象とするのではなく、
概念自体の追究を目指す学問であるということ。
- 2 哲学は、普遍的な問いを発して高みを目指しているように
見えるため、その存在意義が問われているということ。
- 3 哲学は、絶対的な美しさの基準を研究するのではなく、相
対的な美しさの基準を探究する学問であるということ。
- 4 哲学は、真理や美や正義などの抽象的なことを扱うため、
個人を置き去りにしていると誤解されてしまうということ。

問三 「まずそのことじたいが検討されるべきことだろう」(——

- 線部B)とあります。これはどういうことを言っている
のですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一
つ選び、番号で答えなさい。
- 1 普遍的な真理・美・正義などが存在することは自明の理で
はないということ。
 - 2 普遍的な真理・美・正義などが存在すると信じる哲学者は
は、前衛的な人間だということ。
 - 3 普遍的な真理・美・正義などの存在を証明することが先決
であるということ。
 - 4 普遍的な真理・美・正義などの存在を証明することは現在
の学問体系では不可能だということ。

問六

X 、 Y

に入る言葉の組み合わせとして最も適

当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|
| 1 | X | 個別性 | Y | 普遍性 |
| 2 | X | 他者性 | Y | 人間性 |
| 3 | X | 内向性 | Y | 外向性 |
| 4 | X | 主觀性 | Y | 客觀性 |
| 5 | X | 抽象性 | Y | 具体性 |
| 6 | X | 一般性 | Y | 唯一性 |

設問は、裏面に続きます。

問四 「真理や美や正義は、どんな人間の生にも関わっている
もつとも基本的なことがらなのだ」(——線部C)とあり

ますが、なぜそのように言うのですか。その説明として最も
適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 独自の存在である人間の生き方には共通点があるように見
えるが、実際には個人の感受性や価値観は特別に条件づけら
れたものであるから。
- 2 特定の人物や芸術作品が、世界中で美しいと評価されるよ
うに、真理や美や正義が見いだされる対象はどの文化圏にお
いても共通しているから。
- 3 本来は真理や美や正義の基準は個人で異なるが、集団が形
成されると没個性化がおこって均質化され、その基準が普遍
的なものとして共有されるから。
- 4 真理や美や正義の基準は歴史的、文化的に多様なものであ
るが、それらを志向したり感受したりすることは、すべての
人間に共通する営為だから。

問五 「人間とは何か」をめざすのである」(——線部D)と

あります。これはどういうことですか。その説明として最

も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 人間は時代の変化に応じて感受性や価値観を変化させてい
るようと思えるが、喜怒哀楽という感情を有するという事実
は永遠に不变であるということ。
- 2 哲学における普遍的な問いは、すべての人間に共通するこ
とを考察するものであり、それは人間という存在の理解を目
指すことにつながるということ。
- 3 哲学という学問は、喜怒哀楽を生きる同じ人間としての共
感を見いだすことを通じて、今を生きる人びとの特徴とくちょうを明ら
かにするものであるということ。
- 4 多種多様な特性を持つ人間という存在の感受性や価値観に
おける共通点を発見することが哲学の最大の目的であり、今
はまだ道半ばであるということ。

問七 Aさんは、――線部の表現が気になり、【資料】を参照

しながら、【メモ】にまとめました。【メモ】中の①と②に入る言葉として最も適当なものを、後の【選択肢】の中から一つずつ選び、それぞれ番号で答えなさい。なお、選択肢はそれぞれ一回ずつしか使いません。

【資料】

人間には、一人一人、多様な個性がある。にも拘らず、相手がどんな人であろうと受け容れられる人格というのは、どういふものだろう？聖人君子のような理想的な人格なのか、それとも、どんな消費者にもマッチする大量生産品のように、没個性的で、当たり障りのない人格なのか？どちらでもなく、「オレはオレで通つてる」という人がいれば、周りが非常に寛大で、忍耐強く彼を受け入れてはいるだけなのではないだろうか？

私はだから、人間は結局、他人の顔色を窺いながら、「本当の自分」と「表面的な自分」とを使い分けて生きていくしかない、と言いたいのではな。他者と共に生きるということは、無理強いされた「二セモノの自分」を生きる、ということではない。それはあまりに寂しい考え方だ。

そこで、こう考えてみよう。たった一つの「本当の自分」など存在しない。裏返して言うならば、対人関係ごとに見せる複数の顔が、すべて「本当の自分」である。

「個人」という意味の英語の語源は、「分けられない」という意味だと冒頭で書いた。ここでは、以上のような問題を解決するため、「分人」という新しい単位を導入する。人間を「分けられる」存在と見なすのである。

分人は、対人関係ごとの様々な自分のことである。恋人との分人、両親との分人、職場での分人、趣味の仲間との分人、……それらは、必ずしも同じではない。

分人は、相手との反復的なコミュニケーションを通じて、自分の中に形成されてゆく、パターンとしての人格である。必ずしも直接会う人だけでなく、ネットでのみ交流する人も含まれるし、小説や音楽といった芸術、自然の風景など、人間以外の対象や環境も分人化を促す要因となり得る。

一人の人間は、複数の分人のネットワークであり、そこには「本当の自分」という中心はない。

(平野啓一郎『私とは何か「個人」から「分人」へ』)

【メモ】

――線部の表現と【資料】は「①」という考え方と共にしていることがそれぞれの文章から読み取れる。その一方で「②」という点で違ひがある。

【選択肢】

- 1 人間同士の心が通じ合うことはない
- 2 人間は複数の人格を有している
- 3 中核を為す人格の存在を認めるか否か
- 4 哲学の知見の矛盾を指摘する主張である
- 5 自由意志の存在を認めるか否か
- 6 値値判断を他者に委ねるべきか否か

問八 答え用（※これは解答用紙ではありません）

筆者は本文中で自分の内面と向き合うための手がかりとして、心の状態に応じた方法を示しています。その具体的なあり方について、一〇〇字以上一二〇字以内で説明しなさい（句読点も一字と数えます。なお、採点は、どういう書かれ方をしているかについても見ます）。

下書き用（※これは解答用紙ではありません）

120	100	80	60	40	20

問九 ――線部a～gのカタカナに相当する漢字を楷書で書きなさい。

- a コマ（つた） b カタホウ
c キヨウセイ d センニユウケン
e ゲンダイ f ク（らす）
g ムシ

次の文章は重松清『カシオペアの丘で』の一節です。末期

のがんと診断された「僕」は、妻の「恵理」とともに、息子で小学四年生の「哲生」のサッカーの試合を見に来ています。しかし、試合の途中で「僕」は体調を悪化させ、大きく咳き込んでしまい、「恵理」から家に帰ることを提案されました。以下はそれに続く場面です。これを読んで、後の設問に答えなさい。

に駆け込んだ。

恵理は立ち上がり、拍手を送り、「テツちゃん、がんばって！」と声をかけた。僕も座つたまま、手を大きく上げた。僕が振り向く。まかせてよ、と言いたげに笑つて、また全力疾走でポジションにつく。

いいぞ、哲生――。

がんばれ、哲生――。

いつのまにか、ベンチから背番号32の姿は消えていた。恵理もそれに気づき、「あれ？」と声をあげて……その声が、小さな歓声に変わった。

哲生はベンチから離れて、ウォーミングアップをしていた。一緒に走っているのは二人。残りのサブのメンバーはベンチに座つたままなので、形だけの準備ではない。

「出番、あるんじゃない？」

「うん……」

「あるよね？哲生の出番、あるよね？」

恵理は胸の前で手を組んで、祈つた。

僕がそれをただぼうっと見ていて、「わたし一人にやらせないの」と笑つてにらむ。「ほら、あなたもお祈りして」

神さまや仏さまに祈るのは嫌いだ。ずっとそう思つていた。だが、「二人でお祈りしたら、気持ち、絶対に伝わるって」と恵理に言わると、自分でも意外なほど素直に、胸の前で手を組むことができた。

「哲生はパパにほめられるのがいちばんうれしいんだもん、だい

じょうぶ、出番あるわよ」

「試合に出なくたって、いくらでもほめてやるって」

たとえばさつきの「ファイトーッ！」の声――僕はほんとうにうれしかったのだ。

「でも、出ないよりは出たほうがいいでしょ？」

「まあな……」

「じゃあ、がんばってお祈りしなきや」

恵理は組んでいた手をはずし、今度は合掌^{がっしょう}にした。こうべを垂れる。目をつぶる。^Bほんとうは哲生ではなく僕のために祈つてくれる。目をつぶる。

れていのだろう。哲生がサッカーをするところを見るのは、これが最後になるかもしれない。僕も祈る。僕のためではなく、哲生のために。パパの前でカッコいいところを見せたんだ、という

思い出を一つでも多くあいつに残させてやつてください、と神さまに祈る。僕がそれをただぼうっと見ていて、「わたし一人にやらせないの」と笑つてにらむ。「ほら、あなたもお祈りして」

神さまや仏さまに祈るのは嫌いだ。ずっとそう思つていた。だが、「二人でお祈りしたら、気持ち、絶対に伝わるって」と恵理に言わると、自分でも意外なほど素直に、胸の前で手を組むことができた。

「哲生はパパにほめられるのがいちばんうれしいんだもん、だい

じょうぶ、出番あるわよ」

「試合に出なくたって、いくらでもほめてやるって」

たとえばさつきの「ファイトーッ！」の声――僕はほんとうにうれしかったのだ。

「でも、出ないよりは出たほうがいいでしょ？」

「まあな……」

「じゃあ、がんばってお祈りしなきや」

恵理は組んでいた手をはずし、今度は合掌^{がっしょう}にした。こうべを垂れる。目をつぶる。

れていのだろう。哲生がサッカーをするところを見るのは、これが最後になるかもしれない。僕も祈る。僕のためではなく、哲生のために。パパの前でカッコいいところを見せたんだ、という

思い出を一つでも多くあいつに残させてやつてください、と神さまに祈る。僕がそれをただぼうっと見ていて、「わたし一人にやらせないの」と笑つてにらむ。「ほら、あなたもお祈りして」

神さまや仏さまに祈るのは嫌いだ。ずっとそう思つていた。だが、「二人でお祈りしたら、気持ち、絶対に伝わるって」と恵理に言わると、自分でも意外なほど素直に、胸の前で手を組むことができた。

「哲生はパパにほめられるのがいちばんうれしいんだもん、だいじょうぶ、出番あるわよ」

「試合に出なくたって、いくらでもほめてやるって」

たとえばさつきの「ファイトーッ！」の声――僕はほんとうにうれしかったのだ。

「でも、出ないよりは出たほうがいいでしょ？」

「まあな……」

「じゃあ、がんばってお祈りしなきや」

恵理は組んでいた手をはずし、今度は合掌^{がっしょう}にした。こうべを垂れる。目をつぶる。^Bほんとうは哲生ではなく僕のために祈つてくれる。目をつぶる。

れていのだろう。哲生がサッカーをするところを見るのは、これが最後になるかもしれない。僕も祈る。僕のためではなく、哲生のために。パパの前でカッコいいところを見せたんだ、という

思い出を一つでも多くあいつに残させてやつてください、と神さまに祈る。僕がそれをただぼうっと見ていて、「わたし一人にやらせないの」と笑つてにらむ。「ほら、あなたもお祈りして」

神さまや仏さまに祈るのは嫌いだ。ずっとそう思つていた。だが、「二人でお祈りしたら、気持ち、絶対に伝わるって」と恵理に言わると、自分でも意外なほど素直に、胸の前で手を組むことができた。

死にたくないよ、パパは――。

息が苦しい。胸が急に半分のサイズになつてしまつた。息を深く吸い込めない。

E波^はが迫つてきた。今までとは違う。大きな波が僕を呑み込む。頭がクラクラする。気持ちが悪い。胸が痛い。締めつけられる。波は去らない。僕を呑み込んだまま、どこにも流れ去つてくれない。咳き込んだ。胸の中の息をすべて吐き出しても、新しい息を吸い込めない。頭が痛い。溺れた。波に呑まれて、海の底へ沈んでいく。

風景が揺れながら、どこかに吸い込まれていくようにならざる。哲生が揺れる。僕が遠ざかる。

まぶしい光が目を灼いて、次の瞬間^{しゅんかん}、僕は闇^{やみ}の中に落ちた。

「テツちゃん、がんばれーっ！」

恵理の声だけが、聞こえた。

b夢^{ゆめ}を見た。たぶん、それは嘘だ。

僕がいい街にいた。懐かしい友だちがいた。たぶん、それも嘘だ。夢の中で、僕たちは遊園地にいた。夜の遊園地で、きらめくイルミネーションに彩られたメリーゴーラウンドを見つめていた。僕はもう少年ではなかつた。彼女も、もう少女ではなかつた。ぜんぶ嘘だ、たぶん。

恵理に揺り動かされて意識を取り戻したとき、涙^{ななだ}が頬^{ほお}を伝つていた。

F「そのことだけが、ほんとうだった。」

注 彼女：「僕」が以前に遊園地で出会つた「真由」という名

前の少女のことを指している。

プレイが途切れた。主審が選手交代を認めた。少し悔しそうな顔でベンチに下がる先輩とハイタッチを交わして、哲生はピッチ

二の設問

問一 ～～～線部a・bの語句と最も意味が似ているものを、次の各群の中から、それぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a 素直

- 1 専心
2 慢心
3 求心
4 壮心
5 虚心

b 懐かしい

- 1 ストラテジー
2 コスマロジー
3 バイオロジー
4 アンソロジー
5 ノスタルジー

問二 「その声が、小さな歎声に変わった」（――線部A）とあります

が、その状況の説明として最も適当なものを、次の5つの中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 やる気に満ちた「哲生」の様子を見た一部の観客が、「哲生」を応援し始めた。

- 2 「哲生」がベンチを離れて出場の準備をしていることに気づいた「恵理」が、喜びの声を上げた。

- 3 「哲生」が出場に向けて準備する様子を見て、会場中から黄色い声援が沸き起つた。

- 4 試合を熱心に観戦する「恵理」に対して、「哲生」が自分の出場を知らせるかのように叫んだ。

問三 「ほんとうは哲生ではなく僕のために祈つてくれているの

だろう」（――線部B）とは、どういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の5つの中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「恵理」は「哲生」が試合に出場できるように祈つてているのではなく、小学四年生ながらに試合で活躍する「哲生」の姿を見た「僕」が生きる希望を取り戻すことを期待し、「哲生」が試合で活躍できるように祈つているということ。

- 2 一見すると、「哲生」の出場を神さまにお願いしているように見える「恵理」であるが、本当は「哲生」の思いを叶えるために祈つてはいるのではなく、末期のがんに冒される「僕」の病気が完治するように祈つているということ。

- 3 「恵理」は「哲生」が試合に出場することによって、未来が好転して「僕」の病状がよくなるのではないかと期待して祈つていているため、実際には息子である「哲生」のためではなく、配偶者である「僕」のために祈つてているということ。

- 4 一見すると、「恵理」は「哲生」が試合に出場できるように祈つてているように見えるが、実際には「哲生」のためではなく、今回が試合を観戦する最後の機会になるかもしれない「僕」が息子の出場する姿を見られるように祈つてているということ。

問四 「まかせてよ、と言いたげに笑つて、また全力疾走でポジションにつく」（――線部C）とありますが、このときの

「哲生」の心情として最も適当なものを、次の5つの中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 母親だけではなく重病を患う父親も試合観戦に来ていると気づき、その愛情の深さに感動している。

- 2 この試合の勝敗は、自分の活躍にかかっていると気づき、試合に集中しようとしている。

- 3 小学四年生でありながら、上級生とともに試合に出場できることに対して、優越感を抱いている。

- 4 母親と父親の応援を受け、両親の眼前で活躍ができるようになる気をみなぎらせている。

設問は、裏面に続きます。

問五 「ずっと見ていたい」（——線部D）という言葉には、「僕」のどのような思いが込められていますか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

さい。

- 必死に頑張る息子の姿を見たことで感じた、試合が終了するまでは力尽きたくないという抵抗心。
- 徐々に体調が悪化する中で感じた、これまで家族との関わりをないがしろにしてきたことへの後悔。
- 下級生ながら活躍する息子の姿を見て感じた、自らも諦めることなく病と戦おうという決意。
- 死を目前にした状態であることで感じた、息子の成長を今後も見続けていたいという切望。

問六 「波が迫ってきた」（——線部E）とあります。この表現の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 脈打つ痛みを「波」という特殊な表現を用いて描くことで、現実と非現実の境界線がわからなくなるほど「僕」が精神的に衰弱していることを示している。
- 胸が半分になつたと感じるほどに呼吸が苦しくなる様子を「波」という自然物を用いて表現し、その後に描かれる遊園地の人工的な風景との対比を強調している。
- 発作によつて呼吸が苦しくなり、胸が圧迫されて体が呑み込まれていくような切迫した感覚を「波」として表現し、迫りくる苦しさを印象づけている。
- 息子の必死の姿に胸を揺さぶられ、感情が大きく高まり制御できなくなる心の動きを「波」として表現し、父親としての強い感動を示している。

問七 「僕」が夢の中で見た「懐かしい街」や「遊園地」は実際に「僕」の目の前に存在するものではなく、意識を失った「僕」が見た想像上のものであり、意識を取り戻した「僕」が涙を流していたことだけが事実であるということ。

- 意識を失つた「僕」が見た「メリーゴーラウンド」を見る「少年」と「少女」は幼い頃の「僕」と「恵理」である。ように思えるが、これは実際の「僕」の記憶とは異なる光景であり、「僕」の理想を描き出したものであるということ。
- 「僕」と「恵理」が息子の試合と一緒に応援する仲睦まじい夫婦であることは事実ではなく、「僕」の体調が悪化し、涙を流しながら意識を失つたことだけが本当であるということ。

問八 本文の内容・構成・表現の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 地の文（会話文以外の部分）が三人称視点で語られることによって、主人公である「僕」の心情が鮮明に表現されている。
- 「波」の比喩を用いて「僕」の体調を表現することによって、物語がすべて「僕」の夢であることを暗示している。
- 「僕」と「恵理」の会話を中心にして物語を描くことで、人との関わりによって病気との向き合い方が変わる「僕」の様子を描いている。
- 中盤以降の「僕」の言葉に付されている「——」は、「恵生」の姿を見ることで抱いた「僕」の思いの切実さを強調している。

↓ここにシールを貼ってください↓

受	驗	番	号

名	前

2026年度 須磨学園中学校 第2回入学試験解答用紙 国語

※											
問八											
120	100	80	60	40	20						

※	問七	問六	問四	問二	問一
①					
②					
	問五	問三			

(※の欄には、何も記入してはいけません)

※	問八	問六	問四	問二	問一
	問七	問五	問三		
				a	
				b	

(※の欄には、何も記入してはいけません)

※	問九		
	g	e	c
			a
			(つた)
	f	d	b
			(らす)



2026SUMAJ0210

※

※

※
